

平成16年3月22日

下仁田町健康づくり推進協議会  
会長 関口 勇 殿

健康しもにた21「8020」推進委員会  
委員長 市川 智 旦

「下仁田町におけるフロリデーションの推進」に関する提言

標記について、別紙のとおり意見をまとめましたので提言いたします。

健康しもにた21「8020」推進委員会構成

委員長 市川智旦 (下仁田町歯科医師)  
委員 小林清吾 (日本口腔衛生学会 日本大学松戸歯学部)  
同 田浦勝彦 (日本口腔衛生学会 東北大学歯学部)  
同 佐久間汐子 (日本口腔衛生学会 新潟大学医歯学総合病院)  
同 石田覚也 (元気県ぐんま21 口と歯の健康部会)  
同 鈴木 廣 (富岡甘楽歯科医師会 会長)  
同 萩原吉則 (富岡甘楽歯科医師会 専務理事)  
同 黒澤良介 (富岡甘楽歯科医師会 公衆衛生担当理事)  
同 入山久美子 (富岡甘楽地区歯科衛生士代表)  
同 落合慶一 (下仁田町歯科医師)  
同 王 愛熙 (下仁田町歯科医師)  
同 青木秀夫 (下仁田町医師)  
同 佐藤 理 (下仁田町医師)  
同 香内信明 (下仁田町医師)  
同 小池敏博 (下仁田町薬剤師)  
同 須賀康治 (下仁田町薬剤師)  
同 小林京子 (下仁田町薬剤師)  
同 大井田文雄 (下仁田町薬剤師)  
事務局 島津君夫 (下仁田町保健センター)  
同 佐藤喜一 (下仁田町保健センター)  
同 伊原よし江 (下仁田町保健センター)  
同 鈴木いせ (下仁田町保健センター)

## 「下仁田町におけるフロリデーションの推進」に関する提言

### 1.はじめに

健康しもにた21「8020」推進委員会は、下仁田町健康づくり推進協議会 関口勇 会長の委嘱を受け、平成15年11月13日、第1回の委員会を開催した。以来、平成16年2月6日までに3回の委員会を開催し、8020運動を推進するための基盤となるむし歯予防のための公衆衛生的なフッ化物の利用、特にフッ化物利用の原点である「フロリデーション」(水道水フッ化物濃度調整)の実施の可能性について検討を重ねてきた。

その間、町職員、区長会、保健推進員、「健康しもにた21ネットワーク」などを対象にした学習会を開催し、参加者との意見の交換を行ってきた。また、住民を対象にした「フォーカス・グループ・インタビュー」を実施し、住民の意識を調査するとともに問題点の把握に努めてきた。

また、今回の委員会構成に当たっては、専門学会である日本口腔衛生学会に学術的支援を要請し、学会に所属する大学関係者3名に委員を委嘱し、幅広い学術情報の提供を受け委員会の協議を進めてきた。

本委員会の「下仁田町におけるフロリデーションの推進」に関する提言が、今後の健康しもにた21ならびに8020運動の推進に貢献できることを期待している。

### 委員会開催日

第1回 平成15年11月13日(木)

第2回 平成15年12月16日(火)

第3回 平成16年 2月 6日(金)

### 学習会開催日

平成15年12月16日(火) 町職員

平成16年 1月30日(金) 母親クラブ有志

平成16年 1月31日(土) 健康しもにた21ネットワーク

平成16年 2月 6日(金) 区長会、議会社会常任委員会

平成16年 2月 6日(金) 保健推進員

平成16年 3月 4日(木) 連合婦人会、更生保護婦人会、連合母子会、商工会女性部、母親クラブ連合会

### フォーカス・グループ・インタビューの実施日

平成15年12月16日(火)

平成15年12月17日(水)

### 日本大学松戸歯学部視察研修

平成16年 3月12日(金)

## 2. 下仁田町の歯科保健対策の現状

下仁田町では、昭和 63 年度からフッ素塗布（フッ化物歯面塗布）を歯科健診に導入し、フッ化物を利用した「3 歳児のむし歯半減運動」を開始し、乳歯のむし歯有病状況が大幅に改善した。さらに平成 5 年度からは、町内の全部の保育園で、4、5 歳児を対象にフッ素洗口（フッ化物洗口）を開始し、毎年 95% 以上の実施率で継続してきた。その結果、小学校低学年の永久歯のむし歯も大幅に減少した。しかし、健診未受診者にむし歯が多い傾向があり、予防に無関心な保護者の子供への対策が課題として残っている。

小中学校でのフッ素洗口実施については、平成 7 年に 三師会（富岡甘楽歯科医師会、富岡市甘楽郡医師会、富岡甘楽薬剤師会）の連名で陳情があり、下仁田町議会で採択された。保護者からの要望もあり、平成 7 年度より歯科検討会を開き、学校でのフッ素洗口を検討したが、教職員の強い反対があり実施できなかった。そこで、小中学生を対象にした「家庭におけるフッ素洗口」を、町で予算化して現在実施している。しかし、家庭におけるフッ素洗口の申込者は約 80% で、そのうち毎日実行できている人の割合は 30% 弱という状況である。この状況を改善し、より効果の上がる方法を検討するため「フッ化物を利用したむし歯予防とフロリデーション」について、議会の視察研修、保健推進員の視察研修等を実施してきた。下仁田町では、生涯を通じた歯科保健対策の確立をめざしているが、就学前の歯科保健対策以外は、十分な対策が実施されていないのが実状である。

2003 年 8 月、8 0 2 0 財団から「平成 15 年度歯科保健活動助成金」30 万円が、健康しもにた 2 1「8 0 2 0」推進基盤整備事業に対して交付された。事業の目的は、「健康しもにた 2 1 計画に基づき、生涯を通して誰もが食事を楽しみ、健康的な生活が送れるよう、日本口腔衛生学会及び地区歯科医師会の学術的支援を受けながらフッ化物を利用したむし歯予防の正確な情報を住民に伝え、フロリデーションが受け入れられる環境を整備する」ことである。

## 3. 国際的なフロリデーション実施状況

1945 年、米国のグランドラピッズ市で開始されたフロリデーションは、その後、世界保健機関（WHO）、国際歯科連盟（FDI）などの 150 以上の専門機関の支持を受け、多くの国に普及拡大してきた。

英国フロリデーション協会の報告（1998 年）では、世界 36 か国で調整によるフロリデーションが実施されており、普及人口は 3 億 1700 万人である。また、天然のフロリデーション地区を持つ国も 45 か国を数え、給水人口数の把握された国々だけで、その人口は 3873 万人に及んでいる。調整によるもの、天然によるものを合わせると、世界 61 か国、3 億 5600 万人にフロリデーションは普及している。

日本国内でも、フッ化物濃度 0.65 ppm 以上の天然フロリデーション地区が 7 か所あるが、上記の集計には含まれていない。

## 4. 国内外の主な専門機関の見解

### (1) 国際歯科連盟（FDI）の見解

国際歯科連盟（FDI）は、1964 年カリフォルニア州サンフランシスコにおいて開催された第 52 回年次総会において、フロリデーション推奨決議を採択した。その内容は以下のとおりである。

1. 歯牙う蝕症は全身的健康を阻害し、疼痛を誘発して、全世界の大多数の人が罹患する疾病である。

2. WHO、各国政府及び科学専門諸団体より招集された専門委員会によって、う蝕抑制手段としてのフッ化物の安全性、効果及び実用性に関する科学的根拠が検討され、承認された。
3. 過去 30 年間にわたる経年的観察研究の結果、フッ化物がう蝕抑制に対して最も効果的かつ、廉価な方法であることが確認された。したがって、以下の如く決議する。

フッ化物は、う蝕症の発生を安全かつ経済的に抑制する手段として、現状においては最も有効な公衆衛生学的施策であることを、すべての関係当局に推薦すべきことを決議する。

また、FDIは「フッ化物とう蝕」(2001年)において、フッ化物について「水道水からのフッ化物供給は、給水系が整備されている地域では、う蝕予防の最も効果的な公的な健康増進の手段であります。水は誰もが必要でかつ使用する食事成分のひとつであり、それで地域の全ての人々に利益をもたらすからです。この方法の運用上の唯一の制約としては、信頼でき、かつ調整可能な給水路があることです。つまり、常に集中管理された水道があることを意味しています。」と述べている。

## (2) 世界保健機関(WHO)の見解

世界保健機関(WHO)は、1969年、米国ボストン市で開催された第22回総会において、フッ化物実施勧告決議を満場一致で決め、加盟国に対して「フッ化物を検討し、実行可能な場合にはこれを導入すること、不可能な場合にはフッ化物の他の応用方法を検討すること」を趣旨とする勧告を行っている。その時、日本はその決議案の共同提案国だった。その後も、1975年と1978年にも、WHOは同様の決議を行い、一貫してフッ化物の実施を推進してきた。

WHOの専門委員会報告「フッ化物と口腔保健」(1994年)によれば、「上水道が整備されている地域では、フッ化物が地域住民全体への最も有効な方法であり、個人的または積極的な意思を必要とせずすべての社会階級の人々が利益を得られることになる。フッ化物は、国際歯科連盟(FDI)、国際歯科研究学会(IADR)、世界保健機関(WHO)など、150を超える学術および健康に関連する組織団体から推奨されている。」と述べ、「地域におけるフッ化物は安全かつ経済的であり、社会的に受け入れられる実施可能なところでは導入と継続が望まれる」と結論している。

## (3) 日本歯科医師会の見解

日本歯科医師会は、1971年に「フッ化物に対する基本的見解」を発表し、以下のように結論している。

「フッ化物による局所的う蝕予防メカニズムで最も重要な点がエナメル質表層および歯垢中の至適濃度以上のフッ素によるものであることを考えれば、飲料水中フッ化物添加が最も有用性のあることが考えられ、次いで他の全身的应用法が挙げられよう。局所应用法については、なるべく多回数あるいは規則的に、しかも安全に应用しうるものが理論的にも有効性が強くなるであろうことが考えられる。

もしも、全身および局所应用法が併用されれば、その効果は一層増大されよう。

いずれにしても、現在、フッ化物应用到まさるう蝕予防手段の存在しない事実からして、フッ化物によるう蝕予防の推進こそが、現時点における最良の方法であるといえよう。」

さらに、2000年12月には、「フッ化物応用(水道水へのフッ化物添加)に関する見解」を発表し、「日本歯科医師会は水道水フッ化物添加が、各種フッ化物応用の中で、有効性、安全性、至便性、経済性等に対する、公衆衛生的に優れた方法であると認識するが、水道水への添加という手

段の性格上、これらの実施は、最終的には、地方自治体の問題であり、その経過においては、地域の歯科医師会をはじめとする関連専門団体、地域住民との合意が前提であると考え。」と結論している。

#### (4) 日本歯科医学会の見解

日本歯科医学会（医療環境問題検討委員会フッ化物検討部会）は、1999年に答申した「フッ化物応用のための総合的な見解」において、水道水フッ化物添加法を優れた地域保健施策として位置づけ、「国民の口腔保健向上のためのう蝕予防を目的としたフッ化物応用を推奨する。」と結論している。

#### (5) 日本口腔衛生学会の見解

日本口腔衛生学会は、日本歯科医師会の「フッ化物に対する基本的な見解」（1971年）を支持し、1972年に水道水フッ化物添加法の推進を表明した。1982年には「う蝕予防プログラムのためのフッ化物応用に対する見解」を公表した。

2002年9月、「今後のわが国における望ましいフッ化物応用への学術的支援」を発表し、「21世紀のわが国における国民の口腔保健の向上を図るため、専門学術団体として、フッ化物局所応用及び、水道水フッ化物添加法を推奨するとともに、それらへ学術的支援を行うことを表明いたします。」と述べている。

今回の健康しもにた21「8020」推進委員会にも、この学術的支援の一環として、日本口腔衛生学会から委員3名が派遣されている。

#### (6) 厚生労働省の見解

2000年11月、厚生省（現厚生労働省）が、「自治体から、水道水質基準内でのフッ化物添加について技術支援要請があれば、水道事業者、水道利用者、地元歯科医師会等の理解等を前提に、厚生科学研究の成果を活用する等により歯科保健行政の一環として応じてまいりたい。」と技術支援をすることを表明した。

### 5. 健康しもにた21「8020」推進委員会の結論

以上のような状況をふまえ、健康しもにた21「8020」推進委員会は、フロリデーションが、有効性、安全性、実用性において、各種フッ化物応用の中で最も優れた公衆衛生的な方法であると認識する。下仁田町においても、フロリデーションが技術的に実施可能な地域においては、住民の理解協力を得て、すみやかに実施されることを切望する。フロリデーションが実施されれば、子供から成人、高齢者、自分自身で口腔内の健康管理が十分にできない心身障害者まで、給水地域で生活する住民すべてが、その恩恵を受けることができる。さらに、フロリデーションの実施により、生涯にわたるむし歯予防対策が確立され、今後の8020運動推進のための基盤が整備されることが考えられる。

現在では、フロリデーションに対して科学的根拠のある反対論は存在しないが、一部には感情的な反対論や科学的根拠を持たない心配論がある。フロリデーションの実施に当たっては、住民に科学的根拠に基づく正確な情報を十分に提供し、住民の理解協力を得る必要がある。今後は、下仁田町でのフロリデーション実施のために、より多くの住民から支持が得られるように、啓発活動を充実させ継続させていくことが重要である。

## 【主な参考文献】

1. 下仁田町：財団法人 8 0 2 0 推進財団 平成 1 5 年度歯科保健活動助成交付申請書．2003 年 7 月 23 日．
2. 花田信弘，瀧口 徹，池主憲夫，葭内顕史，前田 茂，安藤雄一，深井穂博，小林清吾，田口円裕，石川清子 編：新しい時代のフッ化物応用と健康．医歯薬出版，2002 年．
3. WHO，高江洲義矩 監訳：フッ化物と口腔保健 WHO のフッ化物応用と口腔保健に関する新しい見解．一世出版，1995 年．
4. 日本歯科医師会企画調査室：フッ化物に対する基本的見解．1971 年．
5. 日本歯科医師会：フッ化物応用(水道水へのフッ化物添加)に関する見解．2000 年 12 月 21 日．
6. 日本歯科医学会：フッ化物応用についての総合的な見解．1999 年 11 月 1 日．
7. 日本口腔衛生学会フッ化物研究部会：う蝕予防プログラムのためのフッ化物応用に対する見解．1982 年．
8. 日本口腔衛生学会：今後のわが国における望ましいフッ化物応用への学術的支援．2002 年 9 月 13 日．